

情報活用単元デザインシート

学年・教科	3 年 社会科・総合的な学習	単元名	安全なくらしとまちづくり
時数	28 時間 (本時：第 24 時)	日時	令和元年 10 月 16 日（水） 13:55～14:40
場所・教室	3 年 1 組 教室	授業者	梶野 るい
単元のねらい（目標） ○ 地域社会における事故・犯罪や災害の防止について、関係諸機関が地域の人々と協力して、事故、犯罪や災害の防止に努めていることや関係諸機関が相互に連携して、緊急に対処する体制をとっていることを、見学・調査したり資料を活用したりして調べることができる。 ○ 人々の安全を守るための関係諸機関の動きと、そこに従事している人々の工夫や努力を考えることができる。 ○ 地域の安全な場所や危険な場所、災害時に避難する場所や、安全のために自分が心がけたいことについて、地域安全マップづくりなどの資料作成の活動を通して地域の人々に発信し、地域の安全を守っていこうとする自覚をもつことができる。			

単元の評価規準

知識・技能	思考力・判断力・表現力等	学びに向かう力・人間性
<ul style="list-style-type: none"> 人々の安全を守るための関係機関の働きとそこに従事している人々や地域の人々の工夫や努力を理解している。 地域における事故、犯罪や災害の防止のための諸活動の様子を的確に調査、見学したり資料を活用したりして、必要な情報を読み取ったり、まとめたりしている。 	<ul style="list-style-type: none"> 地域における事故、犯罪や災害の防止のための諸活動の様子から課題を把握し、その解決に向けた関係機関や地域の人々の工夫や努力について考えている。 地域社会の一員として、地域の安全を守るために自分にできることを考え、根拠に基づいて表現している。 	<ul style="list-style-type: none"> 地域社会における事故、犯罪や災害を防止するための諸活動を意欲的に調べ、主体的に学習課題を解決しようとする態度や、地域社会の一員として地域の人々の安全な生活の維持・向上を目指した提案をして社会生活に生かそうとする。 地域社会の一員としての自覚をもち、地域や自分の身を守るために、自分にできることを意欲的に考えようとしている。

指導にあたって

（１）児童観

本学級の児童は、1 学期に「大阪市のようすと人びとのくらし～私たちのまちのようす～」で、自分たちの住む“今里”の地域を探検し、“〇〇な町今里”と表現し、どのような町なのか発表する学習を行った。まず、屋上から今里の町を見て、大まかな方角や特徴的な建物のようすを把握し、屋上からは見えない場所に興味をもっていった。次に、町探検へ出かけ今里の町の様子や建物を撮影し、町の特色を資料にして発表した。このように、体験的な学習の中から学習課題を設定し主体的に学習へ取り組む素地はできつつある。

I C T の活用については、タブレット端末の基本的操作には慣れているものの、プレゼンテーション資料を作成するのは初めてであったため、基本的なフォーマットを提示し、フォーマットの中で資料を作成していったが、情報の入手方法がわからなかったり、欲し

い情報が手に入れられなかったり、手に入れた情報を効果的に利用できなかったりする等、プレゼンテーションの作成方法が不明確な児童も多くおり、〇〇な町今里というテーマから写真や文章が合っていない資料となってしまうたり、自分たちの町を紹介するという本来の目的を忘れてしまったりする児童もいた。

そこで国語科「インタビューをしてメモを取ろう」、「調べて書こう、私のレポート」の学習時に情報活用の基本的スキル習得を狙いNHK for School の番組「しまった！」を活用し、それぞれインタビューの仕方、インターネット検索の仕方を学習した。

この学習を経て自分の主張をわかりやすくまとめるために情報を的確に活用することができる児童も増えてきた。しかし、プレゼンテーション資料を用いて自分の主張をわかりやすく相手に伝えることには課題が残る。

特別活動でも輪番制で司会グループを作り、話し合い活動をしたり、学級通信でお互いの作文などを読み合ったりして、お互いを知り活発な意見交換が出来るような取り組みをしている。しかし算数科など正解が一つである場合には自信をもって自分の主張を行えるが、お互いが自由に意見を交換する場合には、自分の意見に根拠をもち主張するには至っていない児童も多い。

（２）単元観

本単元は、小学校学習指導要領第三学年の内容「（１）身近な地域や市区町村の地理的環境、地域の安全を守るための諸活動や地域の産業と消費生活の様子、地域の様子の移り変わりについて、人々の生活との関連を踏まえて理解するとともに、調査活動、地図帳や各種の具体的資料を通して、必要な情報を調べまとめる技能を身に付けるようにする。」を受けて設定されている。

警察署や消防署を中心として施設や設備の整備や点検、訓練などに取り組み、事故・火災の予防に努め、事故・火災発生時には関係諸機関が迅速に連絡を取り合い、事態に対処している。さらに地域にも様々な設備や組織があり、人々が協力して自分たちの町を守る努力や工夫をしていることに気づき、地域の安全は互いに協力して、助け合って守ることを学習し、自分も地域の一員としてできることを考えることができる単元である。

また、教科書に記載の写真から読み取ったことを基に学習課題を設定し、体験活動やインタビュー、資料（インターネット検索や書籍）を活用して、消防署や警察署、地域の人々の工夫や努力から自分たちができることを提案する学習が展開できる単元である。学習したことを基に地域の人々が行っている防火・防災、交通安全や防犯などに関わる活動の中から、地域社会の一員として自分たちにも協力できることを考えたり、自分自身の安全を守るために日頃から心掛けるべきことを選択・判断したりして、それらを基に話し合う活動を行うことのできる単元でもある。

さらに今里の地域は警察署・消防署が校区内にあり、地域と学校のつながりが強く、児童が考える防災・防犯・交通安全についての提案も受け入れていただける環境にあるため、本単元を地域安全の課題を主なテーマとして取り扱うこととした。

阪神大震災や東日本大震災、毎年大きな被害をもたらす台風などの自然災害、毎日のようにニュースで取り上げられる火事や事故での死傷者などを児童は事実としては認識しているが、どこか他人事である。児童の保護者も同様に災害の怖さは認識しているものの、忙しさからか地域の合同防災訓練を日曜授業として行った際の児童の参加率は75%に留まる（保護者の参加率は46%）。このような実態から、社会科として安全は公的機関や地域に守られていることを学習し、そこから発展させ総合的な学習として地域の一員である自分たちができることを考えていく。そうすることで、自分だけでなく保護者を巻き込んで防災について自分事として考えていく学習活動を行う。

課題立案から発表をする一連の情報活用スキル習得の方法として、NHK for School の「し

まった！」を視聴し、児童が未習の情報活用スキルについて一つ一つ確認し習得していくこととする。

（３）指導観

本単元でつきたい力は、「地域の安全な場所や危険な場所、災害時に避難する場所や、安全のために自分が心がけたいことについて、地域安全マップづくりなどの資料作成の活動を通して地域の人々に発信し、地域の安全を守っていこうとする自覚をもつこと」である。そこで、警察署や消防署、地域の防災活動など地域の安全を守る仕組みや人々の仕事が工夫されていることを知り、さらに自分たちも地域の一員であることを自覚し、自分たちができることを地域の方や保護者に提案する学習を行う。「日曜参観で、保護者や地域の方に自分たちが考えた今里の町の安心・安全を提案する」という学習課題を意識させ、主体的に学習に取り組めるようにしたい。

第一次では、導入時に事故・火災の写真からその怖さを知り、今里の町を事件・事故・火災から守ってくれているものについて学習していく。事故や火災等がなく、安心・安全な町にしていくために自分たちができることを考えていくという学習の見通しをもたせる。

小単元「事件・事故のないまちを目指して」で警察や関係諸機関が連携して、事件・事故の防止に努めていることを学習する。グラフを読み取り、毎日大阪府下で 100 件もの事故が起きていること、死傷者は減少傾向にあるものの、年によってバラつきが見られることなどを読み取っていく。そこから、主に事故を処理している警察の事故件数を減らす取り組みを学習する。さらに、事故以外の警察の仕事を学習し、地域の安心・安全を守っていることを知る。また、地域の安全のために、警察だけでなく地域の人々も活動していることを知り、自分たちができることを考えていく。その中で、地域にある安全マップをさらに安全なものにする学習活動を通して、自分たちも地域の安全を守る一員である認識を高め、次の学習につなげる。

第二次では、小単元「なくそうこわい火事」で、第一次同様、大阪市の火災の現状をグラフから読み取り、減少傾向にはあるものの毎年一定件数起きていることや、原因は様々であることをおさえる。また、消防署の防火の取り組みを学習したのちに、自分の身の回りである地域や学校、家庭などに目を向けていく。

第三次では、事故・事件・火災について学習してきた内容を基に、自分が地域の安全を守るためにできることを考えていく。まず児童は、学習してきたことから今里地域の課題を見つける。課題は「交通安全」「防犯」「防火」の観点で考える。見つけた課題が本当に課題なのか仮説を立て、実際に町に出てアンケートやインタビュー、街頭調査などを行い検証する。この過程を経ることで児童には課題に対する自分の意見に根拠をもち、主張することができるようにさせたい。

次に見つけた課題を解決するために必要なことを並行読書やインターネット検索、インタビューなどを用いて調べ、課題に対する解決策を立案する。そして調べてきたことを一度グループで話し合い、地域や保護者に提案するために資料を整理する。タブレット端末で「発表ノート」のフォーマットを活用し、資料を個人で作成し、それを合成してグループで 1 つの資料とする。合成する際には、相手にわかりやすく伝えることや興味をもってもらうことも念頭に置き、お互いの資料を比較検討して、優先順位を考えたり順番を考えたりして、資料を整理・選択させる。さらに、地域や保護者への発表の前に同単元を学習している 4 年生とリハーサルを行うことで、自分の意見をわかりやすく相手に伝えるにはどのような点を意識すればよいのか考えさせ、お互いに交流する。そうすることで、地域や保護者へよりわかりやすく伝えられるようにしたい。

最後に地域や保護者へ発表することで、地域・保護者を巻き込んで防災について自分事として考えていく。参観の二時間目には、D I G (Desire Imagination Game) を取り入れ、

楽しみながら防災について考えることに触れ、今後児童や保護者が地域の防災・防犯について継続的に考えていけるようにしたい。

指導の流れ

次	時	学習活動	ICT 活用のポイント	指導上の留意点
1	1	○ 交通事故や火災の写真を観察して気づいたことや感じたこと、これまでの経験を発表し、誰がどのように地域の安全を守っているのかを話し合う。	○ 大型モニタに写真を拡大提示することで、細かい所まで気づくことができる。	○ 誰がどのように地域の安全を守っているのか考える際に、自分も地域の一員ということを明確にする。
	2	○ 大阪市内で起きた交通事故の件数や死傷者数、事故の主原因に関するグラフなどを読み取り、わかったことや疑問点を話し合う。		○ 3年生にとってグラフの学習は未習なので、丁寧に読み取り、変化を的確に読み取れるようにする。
	3	○ 交通事故が減ってきたが、まだまだ発生している理由について話し合い、調べたいことを明らかにして学習問題をつくり、学習の見通しを立てる。		○ 最終的な目標を今里のまちを安全・安心にしていけるために自分たちができることを考えるということを念頭に学習課題を考えるようにする。
	4・5・6	○ 110 番のしくみ、警察署の仕事について調べ、交通事故を処理するだけでなく、交通事故を防止する取り組みや、防犯に対する取り組みなど地域の安全を守るための仕事について調べる。	○ NHK for School の「コノマチ☆リサーチ」の“大切な安全を守るぞ！”を視聴することで、教科書以外の多くの情報から、警察の仕事を多角的に捉えることができる。	○ 警察署の仕事は交通事故の処理だけではなく、人々の安全なくらしを守るために様々な仕事をしていることに気づけるようにする。
	7	○ 警察署の人だけでなく、地域の人協力して町の安全を守る活動について調べる。	○ 地域の人へのインタビューの前にもう一度 NHK for School「しまった！」を視聴することで、インタビューを行う際の留意点をクラス全体で確認することができる。	○ 地域の活動を知る中で、自分も地域の一員であることに気づき、自分ができることについて考えるようにする。

	8	○ 校内の防犯に関する設備や校内の安全を守るためにあるものを調べる。	○ タブレット端末で防犯設備を撮影することで、発表ノートでの資料作成を容易に行うことができる。	○ 校内にも防犯に関する設備や施設があることを探検することで学校の安全がどのように守られているか知れるようにする。
	9・10	○ 安全を守るために自分たちができることを考え、地域の安全マップに自分たちの意見を付け足していく。		○ 地域の安全マップを自分たちで付け足すことで、自分たちのまちを自分たちで守るという意識を高めるようにする。
2	11	○ 大阪市の火災発生件数、発生原因のグラフを読み取り、大阪市内で発生している火災についての現状を読み取る。 ○ 東成消防署の写真を2枚みて消防署のヒミツを探す。	○ 大型モニタにグラフを映し出すことで、大阪市の火事は毎年一定件数発生していることを読み取りやすくすることができる。 ○ 写真を大型モニタに映し出すことで、細かい所まで気づくことができる。	○ 警察署学習時のグラフ読み取りを想起させ、単純な増減だけでなく、全体的な傾向や課題を読み取れるようにする。 ○ 写真から、消防署の仕事の工夫に関して想像し、見学へ意欲を高めるようにする。
	12	○ 消防署について話し合い、見学の計画を立てる。		○ 児童の質問を整理し、児童が明確に質問できるようにする。
	13・14	○ 消防署を見学する。	○ タブレット端末で写真を撮影することで、次時からの学習に活用できる。 ○ 短時間学習で「しまった！（写真編）」を視聴することで、写真を撮る際の留意点が確認できる。	○ 道路幅や、駐車違反、密集した住宅地など火災時に問題となる風景も写真に収めておくように留意する。
	15・16	○ 119番通報の仕組みについて調べる。	○ NHK for School「火災が起きたときの消防の仕組み」動画を視聴して、教科書以外の情報と前時の見学で得た情報を併せて考えることができる。	○ 消防も警察と同様に、関係諸機関と連携して、迅速に火事に対応していることを知れるようにする。

	17	○ 校内の消防設備や消防施設を調べる。		○ 学校の消防設備について調べ、学校は火事からどのように守られているか考えるようにする。
	18	○ 地域防災リーダーの話を聴き、地域の消防施設や災害から守る働きをしている人について調べる。	○ タブレット端末で、地域の人へのインタビューの様子を撮影し、発表資料の作成に用いることで、地域の防災について活動している人がいることを広めることができる。	○ 地域の人が主体となって、消防署と連携し、地域の安全を守るための取り組みが行われていることを知り、そこから自分のできることを考えるようにする。
3	19	○ 今里の安心・安全を守るためのまちの課題を考える。		○ むずかしく考えるのではなくて、“自分事”として本気で取り組みたいと思えることを書くように伝える。
	20	○ 見つけた課題が本当に課題なのか仮説を立てて確かめる。(課外活動を含む)		○ 課題が正しいか証明する方法を考えるように伝える。
	21	○ 課題を解決する解決策を立案する。 ○ 発表資料の原稿を作成する。 ○ プレゼンテーション資料を手書きする。	○ NHK for School「しまった！」の「プレゼンテーションを作る」を視聴することで、目的を再確認し、作業に取り掛かることができる。 ○ 並行読書の他にインターネット検索・インタビュー・アンケートを用いることで、より多面的に情報を収集することができる。	○ 児童の思考がぶれないように、始め・中・終わりの原稿を用意する。 ○ 手書きのフォーマットを用意する。
	22 ・ 23	○ 課題と解決策をプレゼンテーション資料にまとめる。	○ タブレット端末を用いることで、たくさんの情報を取捨選択し資料の作成をすることができる。	○ 発表資料のフォーマットを用意する。
	24 ※ 本 時・ 25	○ 個人でまとめたプレゼンテーション資料を発表用にグループで一つにまとめる。	○ 発表ノートで資料を作成することで、グループの意見を反映させる際に何度も見直ししながら作成することがで	○ 個人の作った発表ノートを印刷して持ち、比較・検討をしやすくする。

		○プレゼンテーション資料を修正し、発表の役割分担を行い、発表練習をする。	き、修正も簡便にできる。	○ 合成した発表ノートを持ち、手元で確認できるようにする。
	26	○ 4年生とリハーサルを行い、自分の意見を相手にわかりやすく伝えられているか確認する。	○ 短時間学習の時間にNHK for School「しまった！」のスピーチのこつを視聴し、目線・間の取り方などを視覚的に確認することができる。	○ わかりやすく伝えるために、留意することを確かめさせる。
	27	○ 保護者・地域の方に自分たちの調べたこと・意見を提案する。	○ 大型モニタにグループごとの発表資料を映し出すことで、大勢の人に見てもらうことができる。	○ 全員が役割をもって発表できるように配慮する。
	28	○ DIG (Disaster (災害)、Imagination (想像力)、Game (ゲーム))を行い、保護者と一緒に防災について考える。	○ ゲームの説明を大型モニタに映すことで、途中から来られた保護者も画面を見て参加することができる。	○ 防災カルタをグループごとに用意する。

関連学習： 8/27 防犯教室
9/5 大阪 880 万人訓練
9/29 地域合同防災訓練

本時の学習

(1) 本時の ICT 活用について

授 業 形 態	■一斉学習 ■グループ学習 ■個別学習
ICT 活 用 の 場 面	■導 入 ■展 開 ■ ま と め
I C T 活 用 者	■指導者 ■児 童 □その他 ()
ICT 活 用 の 目 的	■資料の提示(指導者) ■資料の提示(学習者) ■自分の考えをまとめる □ペアの考えをまとめる ■他者との考えの比較・交流 □学習内容を調べる ■自分の考えを表現する □学習の振り返り ■記録(写真・動画等) ■プレゼンテーション等の作成
活 用 機 器	□電子黒板 ■大型モニタ ■指導者用タブレット端末 ■児童用タブレット端末 □その他 ()
活用コンテンツ等	○ 発表ノート
ICT 活用のポイント	○ 発表ノートを活用することで発表児童の主張を他の児童が視覚的に捉えることができる。 ○ 発表ノートで資料を作成することで、グループの意見を反映させる際に何度も見直ししながら作成することができ、修正も簡便にできる。

(2) 目 標

- 安心・安全なまち今里のプレゼンテーション資料を、グループで話し合い1つの資料として作成することができる。

(3) 展 開

学習活動	☆ICT 活用のポイント ◇指導上の留意点	使用機器 コンテンツ	評価
○ 本時の学習課題を確認する。(前時までに作ったプレゼンテーション資料を比較・検討をして一つの資料にまとめるという学習の見通しをもつ。)	◇ 本時の学習課題を確認し、振り返りができるようにする。		【学びに向かう力】 ・ 本時の学習課題に意欲的に取り組もうとしている。 (行動・発言)
“安心・安全なまち今里” を伝える発表しりょうをグループで作ろう。			
○ 個人で作成したプレゼンテーション資料をグループで発表する。	☆ 発表ノートを活用することで、発表児童の主張を他の児童が視覚的に捉えることができる。		
○ 発表ノートのプリントを比べる・並べる・組み合わせる・選ぶなどして一つの資料にまとめるようにする。	◇ 比較するときには、選んだ理由を具体的に示すように伝える。		【学びに向かう力】 ・ 自分たちができることという観点で、実現可能か考えて作成している。(ノート)
○ グループの資料として選んだページを合成して1つの資料にする。 ○ 修正が必要なページを修正する。	◇ 話し合った内容に基づいて合成させていくように伝える。 ◇ 資料の合成の仕方を確認しグループ全員の資料を1つの資料に合成して始めるように伝える。 ☆ 発表ノートで資料を作成することで、グループの意見を反映させる際に何度も見直ししながら作成することができ、修正も簡便にできる。	発表ノートの印刷物・原稿(児) タブレット端末(児) (発表ノート)	【思考・判断】 ・ 自分たちの主張を正しく伝えるために、どこをどのように修正すればよいかを考えて提案しあえている。 (行動観察)
○ 作成した資料をグループで確認し、本時を振り返る。 ○ グループで振り返ったことを全体で共有する。 ○ 次時の活動について知る。	◇ 自分たちができていることが聞き手にわかりやすくまとめられているか確認させる。 ◇ グループで振り返ったことを全体で交流することで、お互いの成果を認め合えるようにさせる。 ◇ 次時では、本時で終わらなかった修正を続けて行うこと、発表に向け役割分担を行い効果的にプレゼンテーションする練習を行うことを伝える。	タブレット端末(児) (発表ノート)	

“安心・安全なまち今里”を伝える発表のしりょうをグループで作ろう。

○学習の流れ

- ①自分のしりょうをグループの人に発表する。
- ②プリントで、グループのしりょうを1つにまとめる。
(ならべる→くらべる→えらぶ→まとめる)
- ③グループでまとめたものを発表ノートで1つのしりょうにする。
- ④グループで作ったしりょうをかくにんし、ふりかえる。
- ⑤ふりかえりを全体でする。

作るときのポイント

・しりょうのじゅん番

(はじめ)

自分たちの考え 1まい

↓

(なか)

考えたきっかけ(学習してきたこと) 1まい

↓

まちにでてわかったこと 1まい

↓

(おわり)

まとめ(ていあんすること) 1～4まい

成果

- ・NHK for School「しまった！」を継続視聴することで、情報活用能力の基本的スキルの習得ができた。
- ・単元の終わりにパフォーマンス課題「保護者や地域の方に自分たちが考える安心・安全なまち今里を提案する」を設定したことで、児童が学習に主体的に取り組むことができた。
- ・タブレットで作成した資料を印刷したことで、意見を比べやすくし、どの資料が適切か思考すること際に役立った。
- ・個人で作成した資料は、グループで実際に調べたことを基に話し合ったので、根拠をもち、自信をもって話し合えた。
- ・単元の終わりにわかりやすく伝えるための資料になったかというアンケートを取ったが、92%の児童がよくできたと回答し、納得のいく資料を作ることができたことに自信をもつことができた。

課題

- ・1つの単元で情報活用スキル向上を狙ったプログラムをたくさん入れたので、うまくまとめられない児童もいた。年間を通して、複数の教科・単元での習得を狙った計画が必要。
- ・児童は自分の作成した資料は、実際に現地に足を運び苦労して作った資料だけに、自信をもっていたのでプレゼンテーションを選ぶ判断基準が、見た目の良さや発言権の強さなどに偏ってしまいがちだった。児童がスライドを入れた理由や順序の理由などを伝え、それぞれのスライドの似ているところや違うところをメモさせていったら、相似点を見つけられ、よりよい選択を見つけられたかもしれない。
- ・学びの自覚としての振り返りを記録して残すことで、児童は成果を実感できるため全ての学習で振り返りを可視化できるので必ず振り返りをする。